

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名	久米川保育園
日時	令和7年6月4日

1. 活動テーマ

<テーマ>

自然・・・1歳児「アリを見つけよう」

<テーマ設定理由>

春になりありやダンゴムシなどの虫が出始め、興味を持って観察をしたり触ってみようとしている姿があった。また、砂場用のコップなどに入れて遊ぶ姿などもあり、興味を持っている様子であったため、設定した。

2. 活動スケジュール

園庭に出てありやダンゴムシなどの虫探しをする。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

透明カップに持ち手と個人マークを付けた観察用のカップを一人一つ用意した。

4. 探究活動の実践

<活動内容>

園庭に出ると他クラスの子や保育士と一緒に虫探しを始める。ありを追いかけていないと探して歩いて回ったりしていた。ありを見つけると捕まえたい様子であったので自分のカップに入れてもらおうと、嬉しそうに眺めたり出ていく様子に驚いたり興味を持って見ていた。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>

紐の持ち手が付いたコップを保育者に手渡してもらう

保育者：「なにかあるかな」

子A：「アリ」と言って足元のアリを見つける。「あった」と言い手で掴む（入ったのか不明）コップに入れる仕草。掌には砂を掴んでいてコップに入れる。

B：Aの隣で地面の別のアリを眺めて目で追う。捕まえようとはしない。

足元を通り過ぎるのに合わせて体の向きを変えて手を叩いて歓声を上げる。

C：その様子をしゃがんで眺めている。

A：再び砂をコップに入れ振る。音がするのが分かり、何度も振る。再び砂を入れる。

保育者：Cが持っているコップにアリを入れる。

C：アリがコップに入ったことに気づいていなかったが、コップを見てアリを見つけると手を離し、後ろに下がりがりながら両手を振る。アリがいなくなったコップを保育者に手渡されるが再び手を振って後さすりする。

コップを受け取ろうとしないが、アリがないことに気づいてコップを手に取る。

アリが入っていないことが分かって保育者に「アリ」と言いながらコップを見せる。

B：コップを持って地面のアリを見ている。アリを見つけると「あ」と言いながら指さす。

保育者にアリを入れてもらおうとコップの中を見ている。コップの飲み口を下に向ける。

アリが落ちてこない。再びコップを覗き込み、アリが入っているのを見て再びコップを下に向ける。

アリが入ったコップを保育者に見せ、「がーがー」と言う。コップの底にアリがいる

ことを指さして保育者に見せる。突然コップを何度も振り歓声を上げた。

A：コップの中に砂を入れ続けている。保育者にアリを入れてもらう。緑の上に登ってきた

アリを眺めているが気にせず砂を入れ続ける。

D：コップに入ったアリを見ている。地面にアリが落ちるとアリの動きを目で追う。

再びアリを保育者に入れてもらうと両手で受取り、左ひじに紐を通して肘に掛け、

別の場所に行く。

子どもの周りからアリがいなくなったので、保育者が人工芝をめくる。

A、B：めくった人工芝の下を見ている。Aは人工芝の下の砂をコップに入れ始める。

E：めくった人工芝を指さす。

A：自分で人工芝をめくる。「アリ」とつぶやく。別の人工芝もめくる。「いない」と言う。

B、E：「いない、いない・・・」と言いながら歩き回っている。Eはいた場所を指さしている。

E：別の場所でアリを見つける。しゃがみこんで指さしている。アリの動きを目で追っている。

B：アリを見つける。アリを指さして側にいる保育者にちょうだいの仕草をする。

E：Bの横で別のアリを見つける。手で掴もうとするのではなく、コップを地面につけて

地面に沿ってコップを動かしている。アリが入らなくて地団駄を踏むが、再びしゃがんで

上からコップを被せようとする。

アリが入らなかったため保育者に入れてもらう。コップを上から覗き込んでいる。

時々コップを持ち上げ、顔より上に掲げて底から覗き込んでいる。じっと眺める。

B：コップを地面に置き、アリが入ってくるのを待っている。

入ってこなかったようでコップをもって歩き出す。

別の離れた場所でアリを見つけて指さし、保育者を見ながらアリがいることを知らせる。

Eも側に行く。A、Dもアリ探しに興味を持ち始め、保育者にアリがいることを知らせる。

「いた、いた、いた」と、声を大きくして伝える。Aはアリの動きが速いので目で

追いかけている。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

職員からの意見

- ・日頃から虫探しをよくしていてアリにも親しんでいる。動きが速いこともよく分かっていて見つけるのも上手だった。
- ・アリそのものよりも砂を集めることに興味を持っている子がいた。砂も自然にある物なのでコップを用意したことで楽しめたのではないかと。友達がアリを探していることはよく分かっていたようだった。やがて一緒に探し始め、砂集めよりもアリ探しの夢中になっていった。友達との遊びの中で興味を持つようになったようだ。
- ・アリを捕まえられないものの捕まえようとする子、目で追う子、怖がってコップに入っても嫌がる子など、様々な子どもの様子が見られた。
- ・アリを自然の中で観察することは難しいので、用意したコップの中に入れて見るのは観察しやすいと思った。
- ・アリを見つけることで言葉を発したり、歓声をあげたりして見つけたうれしさや喜びが伝わってきた。
- ・保育者が捕まえている様子を見たり、自分でも捕まえようとする中で経験を重ねていくと、自分でどうやって捕まえられるのかやってみたり、考えたりすることにつながると感じた。アリ探しをする中で考察力や試す力が育まれるのではないかと。
- ・その経験の積み重ねが、手で掴むのではなくコップを地面につけてコップで捕まえようとする様子やコップを地面に置いてアリが入ってくるのを待つ様子に現れているのではないかと。そうした経験の中でアリの動きやアリ自体への探究につながっていくのではないかと考える。

